

ケーススタディ <神奈川県立伊志田高等学校の場合>

神奈川県立伊志田高等学校では、2008年度に修学旅行でマレーシアを訪れた。これまでも海外での修学旅行経験はあったが、マレーシアでの実施は今回が初めて。村の生活やイスラム文化に触れる体験が非常に好評だったという。お話を楠瀬先生に伺った。

【実施日時】 2008年10月26日～30日

【参加人数】 270名



Q 修学旅行の行き先をマレーシアに変更したのはなぜですか？

A



海外修学旅行はこれまで主に韓国で続けており、その後に英語圏であるオーストラリアで実施したのですが、料金の都合から変更を検討していました。本校の修学旅行の大きな目的には、国際理解教育と英語教育の二点があります。そのため英語が広く通用し、異文化に触れられる国という視点で比較したところ、マレーシアならばちょうど条件に合う上、金額的にも適当だと判断しました。

ほかに候補としてカナダ、グアム、シンガポールも挙がっていたのですが、日本から比較的近いこと、時差が少ないこと、異文化体験に加えて自然体験学習も充実していることからマレーシアに決定しました。

国際理解教育と英語教育には力を入れており、学年ごとにスピーチコンテストや国際理解講演会、近隣の学校に通う留学生を呼んでの交流会などを催しています。昨年度の国際理解講演会では、近くにお住まいでマレーシアに滞在経験のある日本人の方を講師に招き、マレーシアの様子や、日本人として驚いたことについて語っていただきました。



Q その他にはどんな事前学習をされましたか？

A



関心を高めるため、調べ学習を実践しています。三つの班に分かれ、一つめの班はホームページの作成、二つめの班は「マレーシアについて知ろう」というコンセプトでパワーポイントを使っての発表、三つめの班は修学旅行のしおりの作成です。この調べ学習が大きなステップとなり、興味をもって修学旅行に臨むことができたと思います。

また、5月の「社会見学」という行事では、希望者のグループで東京周辺にあるアジアの国々の政府観光局を訪問しました。マレーシアをはじめ、シンガポール、タイ、韓国、カンボジア、香港などの観光局です。調べ学習に必要な資料を集めるとともに、旅行情報を求める際には政府観光局という機関を利用するとよいことを生徒に知ってもらいたくて実施しました。

家庭科ではマレー料理の調理実習を行ない、調理実習の事前学習として、希望者を対象にマレーシアの料理講習会を開催しました。マレーシア人の方は見つからなかったのですが、シンガポール人の講師に来ていただき、カレーパフや、ロティジャラと呼ばれるマレーシアのスナックを作りました。カレーパフはカレー味の具を入れた小さなパイ、ロティジャラは、ココナッツミルクを使ったレース状のパンケーキのようなものです。日本人の口にも合いますし、英語で料理の作り方を説明してもらったことも面白かったようです。



Q 実際マレーシアに行ってみていかがでしたか？

A たくさんの異文化体験ができたのですが、一番評判が良かったのは希望生徒で行ったテメロー村でのホームビジットと学校交流です。マレーシアの民族衣装を着たり、マレーシアの家庭料理を食べたり、伝統的な「チョンカ」という遊びを教してもらったりしたことが、本当に楽しかったという声が多々聞かれました。現地の高校生や中学生と、片言ながらもコミュニケーションが取れたことも嬉しかったのでしょ。英語が苦手な生徒もジェスチャーを交えてコミュニケーションを取ろうとしていたことは、生徒にとって大きなステップアップになったと思います。トイレに水桶やホースがあるなど、生活習慣のカルチャーショックを味わうこともできました。



学校交流に参加した生徒は、紙芝居形式での学校紹介、英語で説明しながらの浴衣の着付け、コマ廻しなどを実演しました。すると「マレーシアにもコマがあるよ」と教わり、新たな発見が。両校の生徒で一緒にコマを廻す交流会となりました。

Q 自然学習ではどのような体験をしましたか？

A クアラルンプール近郊で、二つのコースを設定しました。一つは船に乗ってのホタル鑑賞です。数がものすごく多くてその美しさに感動したという声が多くありました。もう一つは、シャー・アラム森林研究所でのマングローブ・トレッキング。マングローブというと水辺に根を張っているようなイメージですが、普通の木のように生えている様子に生徒達は驚いていました。さまざまな珍しい木々を観察し、「まるでテレビの『どうぶつ奇想天外』の現場にいるようだった」という感想を持った生徒もいました。



自然体験以外では、世界遺産の街マラッカを訪れたグループもあります。有名なマラッカ海峡やオランダ風の建物を目にし、「景色がきれいだった」との感想。歴史的なマラッカの街並みもまた、日本では見られない風景だったと思います。

Q マレーシア修学旅行の実施前と実施後で、生徒さんに変化はありましたか？



前年のオーストラリアに比べると、行く前は生徒にとってマレーシアは身近でなかったかもしれませんが、行ってみると楽しくて、異文化体験ができて、ホテルは大変きれいで、設備も整っている。調べ学習を進めるうちに興味も湧いていたので、むしろよく知っている国より良かったと思います。特に、日本ではあまり馴染みのないイスラム教に触れられた経験が大きかったという感想が多くありました。たとえばモスクに入るときに肌を出さないようガウンを羽織ることや、高速道路のパーキングエリアにお祈りの場所があり、ガイドさんがバスを降りてお祈りに出かけていくことも、日本の生活では想像できなかったでしょう。宗教的な深さを感じられて、世界が広がったと思います。

2010年の修学旅行もマレーシアを予定しており、現地の人と交流の機会をもっと増やしていきたいと考えています。テメロー村での体験がとても好評だったので、今度は希望生徒だけでなく全員カンポンビジットを実施することにしました。さらにクアラルンプールの班別自主行動では、市内観光と英語の勉強を兼ねて、ボランティアガイドの学生さんに付いてもらい、現地の方との交流ができるよう計画しています。



— どもありがとうございました

◆ 生徒さんの感想は次ページ ◆

マレーシア修学旅行 生徒の感想

「修学旅行を終えて」

私にとって初めての海外旅行が今回のマレーシアでした。飛行機も初めての経験で、パスポートの申請で、パスポートを受け取ったとき、世界の国に行くことができるという実感がわきました。前日は、しおりを見て空港の行動を確認しましたが、いざ成田空港に着いてみると右も左も分からない私は、友達にたくさん質問しっぱなしでした。

マレーシアでは、日本と違い四季というものがなく、一年中私たちにとっては真夏の国なので着ていた上着も脱いで腰に巻いてしまう程でした。そして、着いても日本にいる気分の私は、周りがマレー語、スカーフを被っている人が見られたので、違和感がありました。そして、モスクの宮殿、ツインタワー、マレーシアでは有名なチョコレート工場を見学してきた私にとって、一番興味深かった場所はシャーアラムの森林研究所です。六十メートルの鶴のように見える木や木一本で作ったカヌーを博物館で見た後、外に出てジャングルを散策しました。周りは、コオロギのような虫の音、鳥の鳴き声が響き渡っていました。どの木もまっすぐに伸びていて、普段噛んでいるガムの木という粘り気がある、それぞれ日本では見られないおもしろい特徴を持った木がたくさんありました。木の他にも大きさが日本のアリの十倍はある、マレーシアのアリや顔などの脂を取ってくれる葉も、一つ一つのものが新鮮に思えました。散策している私が、まるでテレビの「どうぶつ奇想天外」の現場にいるような気分でした。

コースで回った場所以外の移動でも驚くことがありました。それは、道路の脇にあるヤシの木などの数です。ガイドさんから、マレーシアは日本と違い壁ではなく木を使うことで防音対策をしていることを聞きました。また、使われている木は人工的に植えたものではなく、建物や道路を開発する以前にあったものだそうです。それを聞いた私は、マレーシアに関心を持ちました。今、世界や日本で木を植えるボランティア活動をよく耳にしますが、植えるだけでなく木を残す努力も考えた方が良いと思いました。防音対策の他、空気の循環が良くなり、見た目も美しいと感じました。そして、植えてあるヤシの木からヤシの実が採れ、食用油から化粧水までいろんな用途があるという一石二鳥だと私は考えました。

普段、日本語を使っている私がいきなり英語圏の国に行くことに戸惑いがありました。しかし、買い物で現地の人と話すことで、英語では何と言っているのか分からないということがありましたが、改めてアイコンタクトの大切さが分かりました。片言英語でも会話が成り立っているという感動とともに、世界の人と話せるという楽しさが分かりました。

この修学旅行を通して、私の視野がさらに広がったと思います。もっと世界の国も見たいという気持ちを修学旅行に行く以前よりも強く持っています。

「異文化だから楽しい」

僕の昨年の最高の思い出は修学旅行です。しかし、僕たちが行った場所は京都でも沖縄でも北海道でもありません。日本から飛行機で約7時間の『マレーシア』です。マレーシアは言葉も文化も気候も全く日本とは異なっていました。しかし、だからこそ最高の修学旅行になりました。

マレーシアではたくさんの異文化を経験することができました。中でも、テムロー村での学校交流は、修学旅行でしか体験できない特別なものでした。テムロー村は首都クアラルンプールからバスで2～3時間のところにある小さな村でした。学校には中学生から高校生まで20人くらいの子と、先生方が僕たちを温かく迎えてくれました。僕たちはお互いの国の文化や伝統を教え合ったり、たくさん会話をしたりして友達になりました。もちろん全て英語です。最初は英語が通じるかとても不安でしたが、僕が知っている英語で十分でした。コミュニケーションは言葉だけではないということ学びました。表情だったり、手振り身振りだったり、それだけでも大丈夫でした。

僕たちはまた、村の民宿のパーティーに招待されました。そこで村の民族衣装に着替えて、村のゲームをしたり、現地の民家の人を作るマレーシア伝統料理をいただきました。村の人たちは初めて会ったにもかかわらず、僕たちをととても親切にもてなしてくださいました。すごくうれしかったです。僕たちはこのパーティーで異文化に思いっきり触れました。時間が経つのも忘れるくらい、たくさんの人と会話をしたり、遊んだり、また伝統料理をお腹いっぱい食べたりしました。「異文化って楽しい！いや、異文化だから楽しい！」こんな体験は一般の旅行のツアーではなかなかできないと思います。本当に貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

振り返ってみて、修学旅行がマレーシアで本当によかったです。テムロー村での経験以外にも、マレーシアではたくさんのことを学びました。日本で暮らしていて気づけないことや経験できないことをいっぱい与えていただきました。異文化が大好きになりました。

伊志田高校マレーシア修学旅行日程

第1日(10月26日)

伊志田高校集合(A班:JL 6:30、B班:MH 8:30) (専用バス)

成田空港発(A班:JL 11:30、B班:MH 13:30)

クアラルンプール空港着(A班:JL 18:10、B班:MH 19:40)

専用バスにてホテルへ ホテル《クアラルンプール泊》

第2日(10月27日)

〔午前〕クアラルンプール市内および周辺をクラス別に見学、観光

プトラジャヤ、王宮、独立広場

〔午後〕〔生徒個人の希望をとり、コース別体験学習〕

テムロー村学校交流・ホームビジット

マングローブトレッキング・蛍乗船鑑賞

バツ洞窟見学とバティック染め体験

バツ洞窟見学とピクチャー体験 《クアラルンプール 泊》

第3日(10月28日)〔生徒個人の希望をとり、コース別体験学習〕

象保護区見学

マラッカ見学

シャーアラム見学 《クアラルンプール 泊》

第4日(10月29日)〔班別自主行動〕

ホテル発 クアラルンプール市内自主行動(グループ行動) ホテル着・発

クアラルンプール空港着・発(A班 JL:23:05、B班 MH:23:30)

《機内泊》

第5日(10月30日) 成田空港着(A班 6:50、B班 7:40) (専用バス)

伊志田高校および各最寄り駅方面へ